

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191500042		
法人名	株式会社 ケアフル・ケア		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町応法丙3902番地		
自己評価作成日	平成27年6月5日	評価結果市町村受理日	平成27年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成27年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設6年目に入りましたが、開所から変わらず「介護サービス理念」の唱和は毎朝の朝礼で欠かさず行っています。理念の中にもありますように、「自分が家族の立場なら」「自分が逆の立場なら」という相手の立場に立った介護を目指しています。また、認知症になっても安心して暮らせる場所は「せせらぎしかない」と有田の方に言って頂けるようなような施設作りに取り組んでいます。地域の方とも交流を持ち、地域の祭りやせせらぎで行う秋祭りにも応法区皆様に声掛けをし、「地域の一員」として利用者様共々生活させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山あいの静かな地域に立地している。建物はユニットが横並びに建っており、同じ敷地と道路向かいには宅老所が併設されている。広い敷地で、整備されており、明るい雰囲気を感じられる。会社全体で、地域交流に力を入れ、地域の祭りなどへの参加や、ホームの行事に地域住民を招待され、関わりを密に作られている。それに伴い、入居者に対する地域住民の見守りがなされたりと、良好な関係が保たれている。職員は、言葉掛けは明るく優しく、入居者との会話でも活気がみられる。定期的に理念に目標を立て、全体的にと、個人での達成状況を振り返り、理念の実践に努められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	黒髪	龍門			黒髪	龍門	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	黒髪ユニット	龍門ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護サービス理念「5つのならば」を毎朝朝礼にて唱和し、職員全てが理念に沿った介護を行い、ユニットごとにも理念に沿った目標を立て実践している	介護サービス理念「5つのならば」を毎朝朝礼にて唱和し、職員全てが理念に沿った介護を行い、ユニットごとにも理念に沿った目標を立て実践している	毎日の職員ミーティングにおいて、理念の唱和を行うことで、職員間にグループホームの理念が浸透し、共通の認識や毎日の目標の設定がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りやおくち、施設での祭りなどに参加し、草むしりや畑仕事など一緒に行っています。また、地域の方にお手伝いに来ていただいたり、毎日散歩を行い顔見知りの関係を作っています。	地域の祭りやおくち、施設での祭りなどに参加し、草むしりや畑仕事など一緒に行っています。また、地域の方にお手伝いに来ていただいたり、毎日散歩を行い顔見知りの関係を作っています。	地域の祭りの参加や、行事への呼びかけ、住民にホームの草刈りを手伝ってもらったりと、相互交流の関係が作られている。また、入居者との散歩の際に、挨拶を交わし、馴染みの関係や見守り体制を作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会や掲示板などを使用し理解していただくよう努めています。また、認知症サポーター養成講座などホームで開き、また地域に向き認知症の理解に努めています。	運営推進委員会や掲示板などを使用し理解していただくよう努めています。また、認知症サポーター養成講座などホームで開き、また地域に向き認知症の理解に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月のユニットの行事や出来事、健康状態、入所・退所の状況、事故報告など行いながら、活かしています。意見が出たことについては、職員会議で話し合うようにしています。	各月のユニットの行事や出来事、健康状態、入所・退所の状況、事故報告など行いながら、活かしています。意見が出たことについては、職員会議で話し合うようにしています。	会議は、ホームの状況を報告し、出席者から、意見や提案も多く出ている。また、地域からの相談も受けるなど、良い雰囲気の中で行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進委員会には必ず出席して頂き、意見交換を行っています。また、普段より町主催の研修には積極的に参加し、交流を図るようにしています。	2ヶ月に1回の運営推進委員会には必ず出席して頂き、意見交換を行っています。また、普段より町主催の研修には積極的に参加し、交流を図るようにしています。	町主催の勉強会へ参加、役場の窓口へ寄り、相談しやすい関係作りに努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の戸締まり以外は、常に出入りができるようになっています。ベッ ト冊も自由に降りることが出来るようになっています	夜間の戸締まり以外は、常に出入りができるようになっています。ベッ ト冊も自由に降りることが出来るようになっています	現在、入居者への拘束は行われていない。アイデアを出し合いながら、ケアの工夫や、主治医への減薬の提案、言葉での制止をしないなど、拘束に頼らないケアが行われている。研修も定期的に行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回の虐待防止の勉強会や外部で行われる研修への参加、また職員が対応に対して不安がある際は、早めに解決し虐待へとつながる要素を解決できるように行っています。	年に1回の虐待防止の勉強会や外部で行われる研修への参加、また職員が対応に対して不安がある際は、早めに解決し虐待へとつながる要素を解決できるように行っています。		

自己	外部	項目	黒髪ユニット	龍門ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、理解・活用できるよう努めています。	研修などに参加し、理解・活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、納得し安心して入所して頂けるように努めています。	契約時に説明し、納得し安心して入所して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催し、ご家族の皆様が意見を出しやすいよう、会長様を通じ施設へ要望を出していただくようなしくみを作っています。	家族会を年2回開催し、ご家族の皆様が意見を出しやすいよう、会長様を通じ施設へ要望を出していただくようなしくみを作っています。	家族会を年2回開催し、家族全体からの意見も受けている。また、懇親会も実施され、家族と職員のコミュニケーションも良好で、気兼ねなく、意見や提案を受けられる関係を作られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが意見を言いやすい雰囲気作りと各個人別にファイルを作成し、1ヶ月ごとの意見交換を行っています。	スタッフが意見を言いやすい雰囲気作りと各個人別にファイルを作成し、1ヶ月ごとの意見交換を行っています。	各職員への個人面談を実施されている。個別にファイルを作成し、意見や悩みも記載できるなど、意見交換ができる仕組みを作られている。全体会議や、日頃からも意見を聞き取り、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険労務士に依頼し、給与水準や仕事の出来栄など自己評価を行い、フィードバックしながらやりがいや昇給につながるシステムを導入しています。また、頑張っている職員をしっかり評価できるようにしています。	社会保険労務士に依頼し、給与水準や仕事の出来栄など自己評価を行い、フィードバックしながらやりがいや昇給につながるシステムを導入しています。また、頑張っている職員をしっかり評価できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修には積極的に参加してもらっています。また、毎月個人の目標を振り返りながら、ケアの質の向上に努めています。	施設内外の研修には積極的に参加してもらっています。また、毎月個人の目標を振り返りながら、ケアの質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	有田町内のGHの勉強会を月1回開き、お互いの質の向上に努めています。	有田町内のGHの勉強会を月1回開き、お互いの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	黒髪ユニット	龍門ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に、ご本人が困っていることなどお聞きし、安心して入所して頂けるように努めています。	初回面接時に、ご本人が困っていることなどお聞きし、安心して入所して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人のご要望をお聞きするのは当たり前のことですが、ご家族の思いをお聞きし、支えてケアにつなげていくことも大事なことと思っています。少しでも気持ちが楽になって頂けるように努めています	ご本人のご要望をお聞きするのは当たり前のことですが、ご家族の思いをお聞きし、支えてケアにつなげていくことも大事なことと思っています。少しでも気持ちが楽になって頂けるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要なサービスや援助を十分検討した上で、相手にとって一番いいサービスを提供できるよう、柔軟な対応に努めています。	今必要なサービスや援助を十分検討した上で、相手にとって一番いいサービスを提供できるよう、柔軟な対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもありますように、相手の立場に立って介護が出来るよう日頃から努めています。	理念にもありますように、相手の立場に立って介護が出来るよう日頃から努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族の絆を支えるのが、介護する側の努めと思います。そのために自分たちが脇役になり、自宅にいるような生活を支援していければと思います。	ご本人様とご家族の絆を支えるのが、介護する側の努めと思います。そのために自分たちが脇役になり、自宅にいるような生活を支援していければと思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの店や家など、行きたいところに行ける支援をご家族と相談しながら可能な限り行っています。	ご本人の馴染みの店や家など、行きたいところに行ける支援をご家族と相談しながら可能な限り行っています。	自宅に居た時の暮らしが、出来るだけ継続できるよう、馴染みの関係の継続を支援されている。これまで、知人への訪問、昔の職場、買い物、飲食店等に行かれている。近所の方や、老人会の方なども継続して来訪されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の素晴らしいことを私達が代弁しながら、関係性を作りだしていく支援を心がけています。食事の際の席の配置など日常過ごされる環境には特に配慮しています。	ご本人の素晴らしいことを私達が代弁しながら、関係性を作りだしていく支援を心がけています。食事の際の席の配置など日常過ごされる環境には特に配慮しています。		

自己	外部	項目	黒髪ユニット	龍門ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状・お手紙、家族会への参加を呼びかけています。	年賀状・お手紙、家族会への参加を呼びかけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションから、思いや希望を読み取り、担当者を中心として検討しています。	日頃のコミュニケーションから、思いや希望を読み取り、担当者を中心として検討しています。	日常生活の関わりの中から、職員がそれぞれ工夫して、入居者に対する思いや意向を把握し、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをとり、ケアの質の向上につなげています。	アセスメントをとり、ケアの質の向上につなげています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別申し送りへの記録、申し送りでのスタッフ間の共有・コミュニケーションで把握を努めています。	個別申し送りへの記録、申し送りでのスタッフ間の共有・コミュニケーションで把握を努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやユニット会議でご本人・ご家族の意見を重視し、作成に努めています。	カンファレンスやユニット会議でご本人・ご家族の意見を重視し、作成に努めています。	家族や主治医の意見も踏まえて、職員の意見を出し合い、3か月毎及び、随時更新されている。ケアプランの項目ごとに、ケアの実行表を作成され、ケアの実施状況が把握しやすい工夫もなされている。しかし、担当者会議の記録が未整備となっている。	ケア会議の内容もとに、個々の担当者会議録の作成されることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別申し送りやケアプラン実行表に記入し、情報の共有に活かしています。	個別に申し送りに記入し、情報はノートで共有するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊の際の支援、入所時必要に応じてお試し外泊、ご家族の送迎のお手伝いなど、取り組んでいます。	外出や外泊の際の支援、入所時必要に応じてお試し外泊、ご家族の送迎のお手伝いなど、取り組んでいます。		

自己	外部	項目	黒髪ユニット	龍門ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご自宅への外出、馴染みの場所への外食など支援しています。	ご自宅への外出、馴染みの場所への外食など支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医をそのまま継続して頂けるようにしています。状態に応じて受診、往診、FAXでの報告などDrや利用者様に併せて対応しています。	今までのかかりつけ医をそのまま継続して頂けるようにしています。状態に応じて受診、往診、FAXでの報告などDrや利用者様に併せて対応しています。	町内の病院と関係性が保たれており、入居者の受診時は家族の協力も得られている。受診ノートによる情報共有もしつかりとなされ、適切な医療が受けられる体制を作られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で、変化・気づきがあればその都度看護師へ報告し、指示をもらうようにしています。	日常の中で、変化・気づきがあればその都度看護師へ報告し、指示をもらうようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室との連絡を密にし、情報交換をするように努めています。また、入院中はこまめに足を運び、利用者様の状態の把握・早期に退院できるよう努めています。	地域連携室との連絡を密にし、情報交換をするように努めています。また、入院中はこまめに足を運び、利用者様の状態の把握・早期に退院できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所中の段階で、ご家族またご本人のご希望をお聞きするようになっています。重度化や終末期になった際も、一度意見させたことに関しても、何度も確認しながら、ご家族と一緒に支えていくように努めています。	入所中の段階で、ご家族またご本人のご希望をお聞きするようになっています。重度化や終末期になった際も、一度意見させたことに関しても、何度も確認しながら、ご家族と一緒に支えていくように努めています。	入居時に、ホームの方針を説明されている。重度化や終末期の際は、話し合いを重ね、本人や家族の要望を取り入れて支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、日常から勉強会やマニュアルなどを作成し、連絡体制など共有しながら対応させて頂いています。	急変時の対応は、日常から勉強会やマニュアルなどを作成し、連絡体制など共有しながら対応させて頂いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回その他、職員会議などの際に消防担当が主となり、警報装置の確認など行っています。区長・民生委員の方にも協力をお願いし、災害などの際は公民館の使用もお願いしています	消防訓練は年2回その他、職員会議などの際に消防担当が主となり、警報装置の確認など行っています。区長・民生委員の方にも協力をお願いし、災害などの際は公民館の使用もお願いしています	年2回の消防訓練を行い、実際に夜間の訓練も実施されている。災害時は、近所へも連絡が入り、地域住民の協力を得られる体制も作られている。また、食料品等の備蓄もされている。しかし、火災以外の対策作りはこれからである。	山間地域でもあり、地域などと共に、火災以外の災害対策作りも望まれる。

自己	外部	項目	黒髪ユニット	龍門ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を尊重した声掛けは日常から心がけています。その他も声のトーンや大きさにも気を付けています。	相手を尊重した声掛けは日常から心がけています。その他も声のトーンや大きさにも気を付けています。	トイレへのさりげない誘導や、否定的な言葉掛けはしない等、日頃から、羞恥心や誇りを傷つけない声掛けや、対応を行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にあった、選択できるものを提供し自己決定できるように心がけています。日頃から、思いや希望をお聞きするような環境づくりに努めています。	言葉かけや会話の流れを大事にし、ご本人が決められる環境を作りにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は勿論、食事や水分を提供する際も、利用者様にあった時間にあわせるよう努めています。	日常生活は勿論、食事や水分を提供する際も、利用者様にあった時間にあわせるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや清潔感は日頃から支援していますが、特に外出・行事がある際は化粧などし、気分を高めて頂きます。	身だしなみや清潔感は日頃から支援していますが、特に外出・行事がある際は化粧などし、気分を高めて頂きます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の希望があるものは、提供できています。食事のつぎ分け・食器洗いなど出来る機能を活かして、一緒に準備しています。	ご本人の希望があるものは、提供できています。食事のつぎ分け・食器洗いなど出来る機能を活かして、一緒に準備しています。	入居者から希望は、随時献立に入れられている。食事の準備や配膳は、入居者と一緒出来る事を支援されている。また、出前を取ったり、個別で希望の喫茶店や居酒屋に行くなど、食事が楽しみになるよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を記録しながら、不足されている方には時間をずらし、違うものの提供など行っている。飲みやすい容器・ストローなども利用しながら自分で飲んで頂くことの支援も行っています。	水分摂取量を記録しながら、不足されている方には時間をずらし、違うものの提供など行っている。飲みやすい容器・ストローなども利用しながら自分で飲んで頂くことの支援も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け・介助や必用に応じて、歯間ブラシ・歯磨き粉を変えています。	毎食後の口腔ケアの声掛け・介助や必用に応じて、歯間ブラシ・歯磨き粉を変えています。		

自己	外部	項目	黒髪ユニット	龍門ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをスタッフ同士共有し、その方にあった時間で支援しています。全介助が必要な方でも、トイレに座って頂く時間を作っています。	排泄パターンをスタッフ同士共有し、その方にあった時間で支援しています。全介助が必要な方でも、トイレに座って頂く時間を作っています。	排泄パターンを把握し、入居者にあった排泄支援が行われている。パットの使用状況が多い時は、職員全員で話し合わせ、排泄の支援が適切かの見直しをされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服だけに頼らず、運動・バナナジュースや青汁などを作り提供しています。その方にあった方法をスタッフで考えるようにしています。	内服だけに頼らず、運動・バナナジュースや青汁などを作り提供しています。その方にあった方法をスタッフで考えるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、好きな時に入浴して頂けるよう希望をお聞きしながら実施しています。	毎日、好きな時に入浴して頂けるよう希望をお聞きしながら実施しています。	入居者の希望に沿った入浴時間の設定されている。入居者が入浴拒否をされた場合も、声掛けや誘導を工夫され、本人のタイミングに合わせた入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に調整・衣服の着替え、必要であれば、食べ物・飲み物の提供を行い、安心して寝て頂けるように努めています。	室温に調整・衣服の着替え、必要であれば、食べ物・飲み物の提供を行い、安心して寝て頂けるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今の服薬がわかりやすいように、スタッフで一覧表を作成し、誤薬がないように努めています。また、お薬ノートを活用して、常時服用しておられるものの把握を努めています。	今の服薬がわかりやすいように、スタッフで一覧表を作成し、誤薬がないように努めています。また、お薬ノートを活用して、常時服用しておられるものの把握を努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた、作業・読書など個別支援に努めています。ドライブや買い物なども気分転換に行っています。	一人ひとりに合わせた、作業・読書など個別支援に努めています。ドライブや買い物なども気分転換に行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実施しています。奥様の最期に付き添われたり、外泊支援・居酒屋に夜の外出などご家族と支援しながら、楽しんで頂いています。	実施しています。奥様の最期に付き添われたり、外泊支援・居酒屋に夜の外出などご家族と支援しながら、楽しんで頂いています。	日頃の散歩の他、趣味や食事など、本人の希望に沿った外出を支援されている。家族だけでは外出できない方は、同伴するなどして、家族との触れ合う機会も作られている。	

自己	外部	項目	黒髪ユニット	龍門ユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある際は、ご家族と相談しその方に応じた金銭の所持を対応するようにしています。	希望がある際は、ご家族と相談しその方に応じた金銭の所持を対応するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人はお手紙・はがきを書いてご家族に送られる方もいらっしゃいますし、携帯電話を持って連絡をとられている方もいらっしゃいます。	ご本人はお手紙・はがきを書いてご家族に送られる方もいらっしゃいますし、携帯電話を持って連絡をとられている方もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなどの男性と女性が心地よく使用して頂けるように、別々にしています。季節感を感じて頂けるような、飾り・音楽など取り入れた空間作りを行っています。	トイレなどの男性と女性が心地よく使用して頂けるように、別々にしています。季節感を感じて頂けるような、飾り・音楽など取り入れた空間作りを行っています。	掃除も行き届き、様々な場所に花が置かれ、壁には入居者の写真や絵を飾られている。季節感や生活感のある共用空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が好きなときに好きな場所で過ごして頂けるように、廊下にソファを置いたり、本を置いたりし、ゆっくりした空間創りを提供しています。	利用者様が好きなときに好きな場所で過ごして頂けるように、廊下にソファを置いたり、本を置いたりし、ゆっくりした空間創りを提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時よりご本人が使用されていた物を持ってきて頂き、仏壇なども毎日ごはんも用意するなど馴染みの生活を支援しています。	入所時よりご本人が使用されていた物を持ってきて頂き、仏壇なども毎日ごはんも用意するなど馴染みの生活を支援しています。	車椅子の入居者が使い易い様に、ドアには別の取っ手が設置されている。部屋の中の配置についても、自宅の配置に近いように配慮し、居心地良い居室作りを行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、ベンチ、歩行器など廊下の要所に置きながら、自分できることはして頂く支援をしています。	手すり、ベンチ、歩行器など廊下の要所に置きながら、自分できることはして頂く支援をしています。		